

韓国環境部プレスリリース 2019 年 12 月 28 日付

江原道鉄原郡野生いのしし弊死体から ASF ウイルス検出
(野生いのしし 53 例目)

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?pagerOffset=20&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1158245&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は江原道(カンウォンド)鉄原郡(チョルウォンゲン)葛末邑(カルマルウプ)で発見された野生いのしし死体から ASF ウイルスが検出されたと 12 月 28 日明らかにした。

死体は 12 月 27 日葛末邑(カルマルウプ)一帯で環境調査を遂行した国立環境科学院現場調査チームによって発見された。鉄原郡(チョルウォンゲン)は ASF 標準行動指針により現場を消毒して死体を冷たかった。

国立環境科学院は 12 月 28 日死体から ASF ウイルスを検出したことを関係機関に通知した。鉄原郡(チョルウォンゲン)で 17 番目に ASF が確診よく、全国的には 53 件になった。

定員化国立環境科学院生物安全研究チーム長は"今回の死体は 1 次フェンス内で発見されたことでこの地域では感染死体がさらに出てくることできる"と話した。

以上